



小樽商科大学緑丘100周年記念祝賀会



小樽商科大学 広報誌

Hermes courrier

ヘルメス・クーリエ

2011. November

No. 30

特集：創立百周年記念事業報告
創立百周年記念式典・祝賀会 ……1



▲正門から見た緑丘祭の風景

市民と祝った百周年祭 ……3

創立百周年記念行事 ……5

- 国際シンポジウム
- IT サミット 2011 at 小樽商大
- 丘美会絵画展 2011
- グリークラブ OB 演奏会
- 音楽祭

INFORMATION ……7



創立百周年記念式典・祝賀会

本年7月7日、小樽商科大学は創立百周年を迎えるに至りました。これを記念して、翌7月8日、市内のグランドパーク小樽にて記念式典と祝賀会を開催し、教職員一同および本学関係者の約400人が、お招きした来賓の方々とともに、百周年を盛大に祝いました。

記念式典の冒頭、出席者は3月11日の東日本大震災の被災者に対し黙祷を奉げ、山本眞樹大学長が「日本再生の輝く希望の光となるよう努力を続けてまいります」と、教育機関としての誓いを述べました（山本学長による式辞全文は下欄をお読みください）。次いで、文部科学事務次官の清水潔氏、北海道総合政策部知事室長の高田久氏、北海道大学総長の佐伯浩氏より祝辞を頂き、百年という歴史への賛辞と本学の今後に対する期待のお言葉を賜りました。その後、記念式典は「百年のあゆみ」と題した記録DVDの上映会へと移り、旧校舎や授業風景、寮生活や小樽の街なみといった情景に、出席者からは昔を懐かしむ声が聞かれました。また、式典では、以前に学長を務められた長谷部亮一先生、藤井榮一先生、山田家正先生に、多大なる貢献に対する感謝状を贈呈いたしました。

おごそかな記念式典の後は祝賀会に移り、北海道経済連合会会長近藤龍夫氏、社団法人緑丘会理事長齊藤慎二氏、小樽市長中松義治氏、衆議院議員鉢呂吉雄氏より祝辞を賜りました。次いで、赤いハッピーを羽織った山本学長をはじめ、副学長、来賓の方々16名が鏡開きを行い、一橋大学長の山内進氏の発声で乾杯しました。出席者は誰彼となく祝杯を交わし、談笑の輪が広がっていききました。会場には本学名誉教授の先生や、転出なさった先生の姿も少なくなく、それぞれに商大時代を懐かしみながら、現在のスタッフと和やかに会話を楽しんでいました。また、小樽太鼓衆「鼓舞」による和太鼓の演奏も行われ、大変賑やかな祝賀会となりました。最後には元学長の山田家正先生に乾杯の音頭をとっていただき、楽しい宴はお開きとなりました。

式典、祝賀会の参加者には、商大グッズのボールペンや本誌『ヘルメス・クーリエ』第29号、そして商大の日本酒「小樽緑丘」が配られ、大変好評をいただきました。この吟醸酒の生みの親である前学長の秋山義昭先生は、残念ながら百周年を前に他界なさいましたが、誰よりもこの記念式典・祝賀会を心待ちにしていた先生は、ここに集まった私たちを天より祝福しておられるに違いありません。



▲祝賀会での鏡開き（上）、
乾杯の様子（下）

式 辞

小樽商科大学長 山本 眞樹夫

本日、このように御来賓、また多数の関係御各位のご列席を賜り、小樽商科大学創立百周年を記念する式典を開催させて頂けることに深く感謝を申し上げます。

今年三月十一日に発生した東日本大震災、それにともなう原子力発電所事故により、いま、わが国は未曾有の困難に直面しています。犠牲者の皆様に、深い哀悼の意を表するとともに、今なお不自由な避難生活を送っている多くの被災者の皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

あれから四カ月が経つとはいえ、余震は絶えず、原子力発電所の事故は今なお進行中です。私は、創立百周年という大きな節目とはいえ、このような時期に祝いの式典を開催することに逡巡をおぼえました。しかし、本学は、これからのわが国の復興と再生を直接担う若者たちを教育し、復興と再生への展望や方策を研究する高等教育機関の一員です。大震災後のわが国は、国の在り方、そして文明の在り方も大きな転換を余儀なくされると思われまします。本学創立百周年が、このような歴史の転換点に巡り合わせ



たことを啓示と捉え、世界の在り方、日本の在り方、その中での本学の在り方を、大震災後という新たな文脈の中で改めて考える機会としたいと考え、式典を開催させて頂きました。この式典の趣旨にご賛同を頂き、本日ご列席を賜った皆様に改めて感謝を申し上げます。

東日本大震災という惨禍の中で示された、被災された人々の秩序正しさ、心優しさ、また被災地へいち早く物資を届けるために懸命に努力したコンビニエンスストアや宅配便等の現場の人々の働き、日本のそして世界の産業の停滞を阻止しようとサプライチェ



▲記念式典で式辞を述べる山本眞樹夫学長



▲記念式典で祝辞を述べる来賓の方々 写真左より清水潔文部科学事務次官、高田久北海道総合政策部知事室長、佐伯浩北海道大学総長



▲山本学長より感謝状を受け取る長谷部亮一先生（第5代学長）



▲祝賀会で乾杯の発声をする山内進一橋大学長



◀小樽太鼓衆「鼓響」による演奏



▲祝賀会で最後の乾杯の発声をする山田家正先生（第7代学長）



◀祝賀会で祝辞を述べる来賓の方々 写真左より近藤龍夫北海道経済連合会会長、齊藤慎二社団法人緑丘会理事長、中松義治小樽市長、鉢呂吉雄衆議院議員



▲和やかに談笑する祝賀会出席者

一瞬の必死の回復を担った現場の人々の動きは、世界から称賛され、惨禍の中で大きな希望の光を与えてくれました。

本学は東京、神戸、山口、そして長崎に次ぐ五番目の官立高等商業学校として明治四十三年に設置され、翌明治四十四年すなわち1911年に開学しました。初代校長渡邊龍聖は「実学、語学及び品格」の育成を教育理念に掲げ、本学の礎を築きました。実学を、現場を知り、現実に即した学問の在り方、語学を世界に発信し世界と対話できるコミュニケーション能力、品格を大震災の惨禍の中で被災された人々が示された驚くべき前向きな精神や心優しさに通ずる人としての姿勢と捉えれば、渡邊龍聖の掲げた理念は、本学のこれまでの百年ばかりではなく、むしろ大震災を克服し日本を再生するために最も必要とされる人材像であり教育理念であると思います。私は、こうした理念をもつ本学で学び、教育研究を担うことが出来たことに大きな誇りを感じます。

いかなる時代にも、いかなる状況にあろうとも、教育とは未来を託するということです。われわれは、本学百年の歴史を踏まえ、教育研究を通じていかなる未来を学生諸君に託するのかを構想し、その実現のための基礎を築くことこそが百周年記念事業であると考えました。その答えの一つが学生寮の再興です。

渡邊龍聖は、学生寮を、学生諸君が互いに切磋琢磨し人格を陶

治する場として、彼の品格教育の中核に据えました。最盛期には五つの寮がありました。しかし、1970年代の学生運動の嵐の中で、1984年、智明寮の廃寮を最後に以後四半世紀にわたり本学には学生寮がありませんでした。

本学の品格教育の重要な一角であり、イギリス式に言えばカレッジとほぼ同義の学寮の再興こそが、本学百年の教育理念を継承し、本学の未来を託するにふさわしい百周年記念事業だと考えました。この記念事業の趣旨に全面的にご賛同を頂き、募金活動をして頂いた、緑丘会、小樽商科大学後援会に改めて感謝を申し上げます。

いま、われわれは大震災という惨禍を乗り越え、教育研究を通じて、日本を世界から称賛される見事な国へと再生する大きな使命を担っています。本学には「北に一星あり、小なれどその輝光強し。」という言葉が伝わっています。北の小規模大学ではありますが、百年の歴史と伝統を踏まえ、日本再生の輝く希望の光となるよう努力を続けてまいります。今後とも、皆様のご協力のご指導、御鞭撻を頂けるよう改めてお願いし、本学創立百周年記念式典の挨拶とさせていただきます。

平成二十三年七月八日

市民と祝った百周年祭

渡邊龍聖初代校長が「小樽高商は小樽区の徽章である」と述べたように、本学は小樽が生み、小樽に育てられてきました。100周年を迎えた今日、ホームタウンへの感謝の念はいよいよ強く、去る7月9日、10日に開催した百周年祭も、学生、教員、職員、卒業生だけではなく、広く市民の皆様や本学と関わりをもつ機関・企業の方々と共に祝うことをコンセプトといたしました。また、毎年、小樽市民に親しまれている緑丘祭・緑育祭（大学祭）も今年は同時に開催し、学生たちも様々なイベントを企画して来場者をもてなしました。



▲7月9日、11時、小樽商大百周年を祝うオープニングイベントとして、記念祝賀会を第一体育館にて行いました。会場には約1000名の市民、卒業生が詰めかけ、本学教職員とともに、創立百周年を盛大に祝いました。



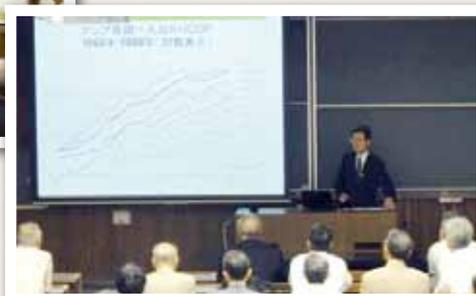
▲今や商大一の一大所帯となった翔楽舞（よさこいソーラン学生チーム）が、豪快かつ優美な演舞を披露しました（左）。会場には北海道大学チームをはじめ、札幌市立大学（右）、北星学園、武蔵女子短期大学といったライバルチームも駆けつけてくれました。



◀▲外国人の先生達が市民向けの体験英語授業を開き、本学自慢の実践的な英語教育を体験していただきました。小中高生から年配の方々まで、大変好評でした。



▲▶商大生だった在りし日を追想し、また、学ぶことの意義を再確認していただくため、卒業生を対象にホームカミング講義を開講しました。講師は山本眞樹夫学長（上）と海老名誠特認教授（右）で、それぞれ「簿記会計の成り立ち」、「発展するアジアと共に」と題して講義しました。



▲民謡を趣味とする英語の高井收先生（右）が、お師匠さんたちと江差追分を披露しました。



▲大学会館前の広場に設営されたステージで、学生達が様々なイベントを開催しました。写真は左から順に、ジャズ研究会、チアリーダー、プレクトラムアンサンブルで、右端は隣の小樽商業高校のプラスバンドの演奏です。



▲以前に本学で教壇に立っていた二人の先生に、小樽商大にまつわるテーマで記念講演をお願いいたしました。写真左は浜林正夫先生（一橋大学名誉教授）で、「高商から商大へー私の思い出ー」の題目でお話頂きました。右は栗田啓子先生（東京女子大学教授）による「小樽商科大学蔵書と高商の経済学者達」の講演風景です。



▲今や緑丘祭の名物ともなった流しそめん。今年は百周年にちなんで「100m流しそめん」と銘打ち、50メートルもの長さに継ぎ足した青竹2本の上を、そめんやミニトマトが流れ落ちました。その他、怪しげな食べ物も流れてくることがあり、あちこちで歓声が上がっていました。

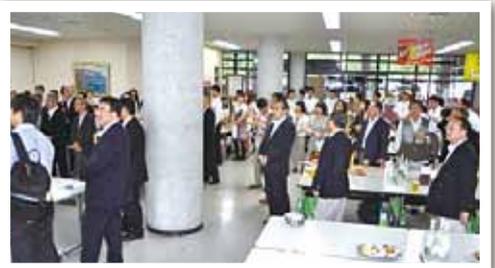
僕！小樽商大の公認キャラクターの**商大君**だよ。今日僕は小樽商大の公認キャラクターの**商大君**を見に来たんだけど、100周年だいてあって、みんないつも以上に元気長ってるわ。カレー屋だとか焼き鳥屋だとか、おいしそう**模擬店**もいっぱい出てし、**子ども運動会**も本当に楽しそうだね。皆さん、これからも商大生を応援してね。



▲緑丘祭恒例のお笑ステージに、今年はダイノジ（写真）ととろサーモンの二組を迎え、テレビで見るとは一味違うライブの笑いを楽しめました。



◀小樽市内の太鼓同好会、小樽太鼓衆「鼓響」が、石狩の海を思わせる豪快な演奏で会場を盛り上げました。



◀同窓意識を確かめ、これまでも増して母校愛を深めていただこうと、ホームカミングパーティーに卒業生を招待しました。懐かしい顔との再会、思い出深い出来事の回想、互いの近況報告。最後に合唱するのは、もちろん「校歌」と「若人逍遙の歌」。(右は挨拶する大矢繁夫副学長。昭和47年、本学卒)



▲附属図書館3階で百周年史料展示を行い、卒業生小林多喜二の成績表や、伊藤整がフランス語で劇を演じる写真など、小樽高商時代からの商大百年の歴史を紹介しました。今後も史料展示室は常設いたしますので、是非お越しください。



創立百周年記念行事として様々なイベントを開催しました

8/26
8/27

国際シンポジウム

本学では平成21年に、「グローバリズムと地域経済」をメインテーマに、「地域研究会」を設置しました。これは全学科の教員がそれぞれの知見にたつて、専門分野の壁を越えた研究を推進しようとするものです。この度の創立百周年に際し、この「地域研究会」が主催となって、去る8月26日、27日の両日、「国際シンポジウム—グローバリズムと地域経済—」を開催いたしました。これは、海外の協定大学から研究者を招いて、これまでの研究成果について議論を深めることを目的としたもので、国内の研究者にも多数参加いただきました。

26日は全国各地および世界各国から集まった研究者たちによる研究発表会が本学で行われ、観光、医療、経営、経済統合、地方財政、都市計画の6つの分野で議論が交わされました。翌27日には、札幌の京王プラザホテルで、「グローバリズムと地域経済—北海道経済の成長可能性—」をテーマに、一般市民を対象とする基調講演とパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、本学の穴沢眞教授と東京大学大学院農学生命科学研究所の本間正義教授、そして協定大学から参加した5名の研究者による意見交換会が行われました。同時通訳付きということもあり、シンポジウムには300名を越す一般市民の参加があり、今後の北海道経済の再生に向けて盛んな議論が交わされました。



▲パネルディスカッションに大勢の方が集まりました



▲パネリストのゴードン・ダビネット氏（イギリス、シェフィールド大学）

6/30

ITサミット2011 at 小樽商大

去る6月30日、日本のIT企業のトップをお招きし、IT産業が進むべき道についてパネルディスカッションを開催しました。ゲストは樋口泰行氏（日本マイクロソフト(株)代表取締役社長）、大川秋夫氏（アクセンチュア・テクノロジー・ソリューションズ(株)代表取締役社長）、吉谷清氏（日本ヒューレッド・パッカード(株)常務執行役員）、石積尚幸氏（日本オラクル(株)専務執行役員）の4名で、日本のIT企業を代表する方々の話が聞けるとあって、学生、一般市民など、約450名の聴衆が詰めかけました。また、今回のイベントに際しては、学生達がチームを組んで事前に上記の各社を訪問して様々な取材を行い、その成果を発表する場も設けられました。参加した学生達にとっては有意義なキャリア教育ともなったようです。



▲パネルディスカッション



▲会社取材の成果を発表する学生

「ITサミット2011 at 小樽商大」に参加して

社会情報学科3年 吉田 空美

今回のITサミットで、私が所属したのは日本オラクルの発表を担当する班でした。日本オラクルは創設者である佐野さんが商大OBであるなど、商大と縁の深い企業だったため、取材するのが大変面白かったです。

緊張して臨んだ企業訪問でしたが、多くの方々のご協力のおかげで素晴らしいものになりました。商大OBで専務執行役員の石積さんや、同じくOBの北川さん、その他社員の方々とお話する機会を沢山設けて頂き、就職活動を控えた身として大変勉強になりました。

この取材を元に当日の発表を作成していきました。苦労した部分も多くありましたが、先生方やOBの方々の助言のおかげで納得いくものが出来ました。当日は今までの苦労が嘘のようにあっという間に過ぎて行きました。ゲストの方々や協力して下さった方々が喜んで下さって、本当にうれしかったです。



▲左から2人目が吉田さん



商大図書館学外開放のご案内

開館時間[通常期間] / (月～金) 8:45～22:00、(土) 10:00～19:30、(日・祝) 10:00～17:00

” [休業期間] / (月～金) 8:45～17:00、(土・日・祝) 10:00～17:00

商大図書館 TEL 0134-27-5273

6/21~26
7/6~10

丘美会 絵画展 2011

小樽商大同窓会員「丘美会」とは、かつて緑が丘の校舎に学び、こよなく絵画を愛する卒業生達の集まりで、毎年、絵画展が催されています。百周年の本年度は「私と絵画と小樽」をテーマに、札幌の大通美術館(6/21-26)及び市立小樽美術館(7/6-10)の2ヶ所で開催され、多くの方々に足を運んでいただきました。出展された作品はモチーフも画風も様々で、人物画や抽象画、旅先の風景や過去の思い出など、それぞれに個性を表現していました。そんな中、やはり創立百周年だからでしょうか、1960年代の旧本館や昔の大学の風景を描いた絵の前には、立ち止まって思いに耽る人も見られました。



▲絵画展にあわせて発行された
創立100周年記念文集

7/18

グリークラブOB演奏会

去る7月18日、小樽市民会館にて、本学創立百周年を記念して、グリークラブOBが主催する演奏会が行われました。北海道内外から集まった29歳から82歳までの卒業生90名、賛助出演の現役グリークラブ、女性合唱団カンタールが一堂に会し、母校の記念に高らかな歌声を披露しました。『校歌』や『若人逍遙の歌』はもちろんのこと、とりわけ男性合唱組曲の名曲と称せられる『雪明りの路』（伊藤整の詩集から6編を選び、多田武彦が曲をつけたもの）では、1000人を超える聴衆の拍手は鳴り止む気配さえなく、歌う側にも聴く側にも、感涙をうかべる姿があちこちに見られました。



▲グリークラブOBによる合唱



▲現役グリークラブと女性合唱団カンタール

披露しました。『校歌』

や『若人逍遙の歌』はも

しろんのこと、とりわけ男性合唱組曲の名曲と称せられる『雪明りの路』（伊藤整の詩集から6編を選び、多田武彦が曲をつけたもの）では、1000人を超える聴衆の拍手は鳴り止む気配さえなく、歌う側にも聴く側にも、感涙をうかべる姿があちこちに見られました。

10/10

音楽祭

去る10月10日、百周年を音楽で祝う祭りを、小樽市民会館にて開催しました。合唱、演奏を披露したのは、本学のグリークラブおよび室内管弦楽団の現役学生と卒業生で、札幌文化奨励賞の受賞歴もある「札幌シンフォニエッタ」のメンバーにも参加していただきました。また、ベートーベン交響曲第9番第4楽章『合唱』では、小樽出身の指揮者辻博之氏がタクトを振り、商大百周年の祝いに相応しい『歓喜の歌』が力強く合唱されました。アンコールには『若人逍遙の歌』が奏でられ、客席から惜しみない拍手が送られていました。



◀室内管弦楽団による演奏。指揮は相内俊一本学教授



▲辻博之氏の指揮によるベートーベン第9の合唱



市民交流の場：小樽駅前プラザ「ゆめぼーと」をご利用下さい。
小樽市稲穂3丁目3番1号(小樽グリーンホテル別館内) TEL 0134-32-4624
開館時間／火曜日～土曜日 13:00～19:30

INFORMATION

平成24年度 入学試験日程のお知らせ

●商学部（昼間コース・夜間主コース）

選抜区分	コース	出願期間	選抜期日	合格発表
推薦入試	夜間主	23.11.1(火) ～11.8(火)	23.11.19(土)	23.12.1(木)
社会人入試				
推薦入試	昼間	24.1.12(木) ～1.19(木)	センター試験と書類審査	24.2.6(月)
帰国子女・中国引揚者等子女・ 私費外国人留学生入試			24.2.11(土)	24.2.16(木)
※専門高校・総合学科卒業生入試	昼間	24.1.23(月) ～2.1(水)	24.2.25(土)	24.3.6(火)
※一般入試(前期日程)	昼間・夜間主		センター試験と書類審査	24.3.21(水)
一般入試(後期日程)	昼間			

※東京にも試験場を設置します。

●大学院商学研究科（アントレプレナーシップ専攻・現代商学専攻）

選抜区分	出願期間	選抜期日	合格発表
アントレプレナーシップ専攻 (組織推薦・指定日入試)	23.11.15(火) ～12.1(木)	23.12.11(日)	23.12.15(木)
アントレプレナーシップ専攻	24.1.6(金) ～1.16(月)	24.2.5(日)	24.2.16(木)
現代商学専攻【博士前期課程】	23.12.20(火) ～24.1.10(火)	24.2.4(土)	24.2.16(木)
現代商学専攻【博士後期課程】		24.2.5(日)	

●学生募集要求の請求方法など入学試験に関するお問い合わせは入試課入学試験係まで
TEL 0134-27-5254 E-mail nyushi@office.otaru-uc.ac.jp

■商学部入学試験に関する情報：<http://www.otaru-uc.ac.jp/hnyu1/welcome.htm>

■アントレプレナーシップ専攻に関する情報

：<http://www.otaru-uc.ac.jp/master/bs/index.htm>

■現代商学専攻に関する情報：<http://www.otaru-uc.ac.jp/master/gs/gs.html>

第22回伊藤整文学賞 講演会・贈呈式を開催しました



▲伊藤氏の記念講演

▲受賞者の角田光代氏(左)
と宮内勝典氏(右)

去る6月17日(金)、商大百周年を記念して、第22回伊藤整文学賞の贈呈式が本学にて開催されました。この賞は小樽出身で本学卒の伊藤整を記念して小樽市が創設したもので、母校での贈呈式は22回目にして初めてのことです。

本年度の受賞者は、『魔王の愛』の宮内 勝典氏、『ツリーハウス』の角田 光代氏で、両氏には記念のブロンズ像「カモメ呼ぶ少女」が贈呈されました。贈呈式に先立ち、ご子息の伊藤 滋氏が「活力ある小樽・北海道をめざして」と題する百周年記念講演を行い、都市計画がご専門の伊藤氏ならではの提案に、参加者も真剣に聞き入っていました。

その後の祝賀会では、お三方とも参加者の写真撮影の求めに気さくに応じられるなど、終始和やかな雰囲気が漂っていました。

百周年記念イベント

おたるスキー発祥百周年記念シンポジウムを開催します

- 日時：平成24年2月4日(土)
- 会場：小樽経済センター7階大ホール

小林多喜二国際シンポジウムを開催します

- 日時：平成24年2月21日(火)～23日(木)
- 会場：小樽商科大学講義室

※講演者、講演題目など詳細は決定次第、ホームページ等でお知らせします。

図書館主催「ゆめぼーとライブ」第9弾

去る7月22日(金)、本学駅前プラザ「ゆめぼーと」にて、図書館主催の市民講座《ゆめぼーとライブ第9弾》が開催されました。今回の講師は嘉瀬達男准教授(中国語、中国文学)で、「『史記』の読み方、作り方」と題し、中国の長大な歴史絵巻の成り立ちや時代背景などを、スライドを交えながら分かりやすく解説しました。



終了後には、参加者の方々から質問や感想など多くの発言があり、予定の時間を超えて活発に意見交換がなされ、大変好評をいただきました。

百年史・写真集・DVD好評販売中!!



『小樽商科大学百年史』
10,000円(税込)

『北に一星あり 写真集
小樽高商・商大の百年』
2,000円(税込)



創立100周年記念DVD/CD
北に一星あり 小なれど その輝光強し
2,480円(税込)

商大100年の歴史を3作品に渡り収録。創立50周年、80周年の記念映像もデジタルで蘇る。グリーンクラブによる学園歌集CD付き。

※各商品は本学駅前プラザゆめぼーとで、ご覧いただけます。

●お買い求め、お問い合わせは小樽商科大学生活協同組合まで
TEL：0134-23-2298 FAX：0134-25-5985

学生や先生の活動、イベント、学内の風景等を
ブログで毎日好評更新中!



<http://d.hatena.ne.jp/shoudai-kun/>

編集後記

去る6月に開かれた丘美会絵画展を拝見した。なかでもやはり昔の小樽や小樽商大を描いた絵画には目がとまるのであった。古い写真をもとに描かれたのであろうか。それとも記憶をたぐって描かれたのであろうか。写真であれば白黒のものが多くであろうから、その場合、色彩は描き手の記憶の再現なのであろうか。かならずある、小樽運河や小樽商大の前庭といったテーマの絵画にまじり、商大の旧寮の絵画もあった。どんな姿の寮であったのかとしばしば見入った。(FN)

編集スタッフ 尾形弘人、加藤敬太、中村 史、南 健悟

【ご意見・ご要望のお願い】

広報委員会では、読者の皆様のご意見・ご要望をもとに、より良い広報誌を作成する所存です。取り上げてほしい話題、質問したいことなど何でも結構です。下記にお寄せください。

E-mail kouhou@office.otaru-uc.ac.jp FAX 0134-27-5213

<http://www.otaru-uc.ac.jp>

